

第1表 ファンの省エネルギーに関する基本事項

目的	方法	適応条件
機器効率の向上	高効率ファンの採用	負荷が一定である
運転効率の向上	サクシヨンベーンコントロールの採用	負荷変動が大きい (容量が大きい程) 効果あり
	ボールチェンジシステムの採用	
	インバータ(周波数)防御システムの採用	

第2表 現状間仕切における負荷要因

要因	チェック項目
人体	在室人員数
照明	器具数およびkW
機器	O.A. 機器などの台数, 発熱量
換気	排気を必要とする機器の台数, 排気量

第3表 2コイルを1コイルに変更した場合の省エネルギー効果量

省軸動力量 $\Delta P = \frac{Q \times (SP_2 - SP_1)}{K \times \eta}$ [kW]	
Q : 風量 m^3/min SP_2 : 静圧 $mmAq$ (2コイル) SP_1 : 静圧 $mmAq$ (1コイル) K : 空気動力 η : ファン効率	例 $Q = 300m^3/min$, $SP_2 = 80mmAq$ $SP_1 = 70mmAq$, $K = 6.120$ $\eta = 0.5$ とした場合 $\Delta P = \frac{300 \times (80 - 70)}{6.120 \times 0.5}$ $= 0.98$ [kW] となる (ただし, 送風機は多翼形)

第4表 加湿方式と特色

方式	特色
高压スプレー方式	加圧ポンプにより水を噴霧, 加湿効率が悪く, メンテナンスに手間がかかる。
パン型加湿方式	電熱コイル加熱により水蒸気を発生, 本体にスケールがつきやすい。
超音波加湿方式	超音波により微細水粒子を発生, 室内に白粉が発生する恐れがある。
電極加湿方式	電極加熱により水蒸気を発生, 加湿効率も優れメンテナンスが容易。